

令和2年度(2020年度)

管理事業名	高齢者生きがい事業				総合計画の体系	大綱 3 政策 1 施策 1	福祉・健康 高齢者の暮らしを支えるまちづくり 生きがいづくりと社会参加の促進
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 3	民生費	(項) 1	社会福祉費	(目) 3	老人福祉費
部局名	福祉部	予算執行所属	高齢福祉室・福祉総務室				
予算大事業名	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名						
事業の目的と概要 (1)目的 高齢期を迎えても生きがいをもって、地域で健康に暮らすことができるよう、生涯学習やスポーツなどを通じた生きがいづくりの活動や就労、地域活動などの社会参加への支援を進めること。 (2)概要 ・高齢者の生きがいづくり及び福祉の増進を図るため、高齢クラブ・地区敬老行事運営委員会等の活動を支援します。 ・高齢者生きがい活動センター、高齢者いこいの家、高齢者いこいの間等の施設を運営します。 ・地区福祉委員会が年4回を超えて実施したふれあい昼食会の一部に対して、(福)吹田市社会福祉協議会を通じて助成します。							

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標の定義
高齢者生きがい活動センター主催講座 開催回数	回	145	116	49	高齢者生きがい活動センターの主催講座 年間開催回数
高齢者生きがい活動センター自主講座 開催回数	回	71	79	29	高齢者生きがい活動センターの自主講座 年間開催回数
シルバー人材センター会員数	人	1,969	2,050	1,966	(公社)吹田市シルバー人材センターの年間延会員数
成果の説明	・高齢者生きがい活動センターについて、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、前年度に引き続き、約6か月休館したことにより、開催回数が減少しました。しかしながら、感染対策を講じながら、高齢者の教養向上等に積極的に取り組むことができました。 ・シルバー人材センターの年間延会員数は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入会説明会の開催自粛・定員削減をしたことで会員数が減少しました。しかしながら、感染対策を講じながら会員の研修会等を積極的に行い、高齢者の社会参画の促進、会員の技術向上が図られました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
経常収入				
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	4,168	4,168
府支出金(経常費用充当)	-	6,725	-	△6,725
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	-	701	602	△99
経常収入 小計(a)	-	7,426	4,770	△2,656
給与関係費	-	56,314	43,496	△12,818
物件費	-	75,989	58,640	△17,349
維持補修費	-	1,362	1,249	△113
社会保障扶助費	-	580	480	△100
負担金・補助金・交付金等	-	89,571	43,965	△45,606
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	-	25,686	25,015	△671
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	-	4,381	3,484	△897
退職手当引当金繰入額	-	24,424	△6,354	△30,778
支払利息	-	4,398	4,096	△302
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	-	282,705	174,070	△108,634
経常収支差額(a)-(b)=(c)	-	△275,279	△169,301	105,979
特別収入				
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別支出				
固定資産除売却損	-	-	7,455	7,455
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	7,455	7,455
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	△7,455	△7,455
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	-	△275,279	△176,756	98,524
一般財源充当額	-	232,912	181,373	△51,539
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	-	△42,367	4,617	46,984

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
物件費	令和元年度における旧山手地区高齢者いこいの間解体撤去工事費の皆減(16,665千円)、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う福祉バス貸付料366千円(9,917千円の減)
負担金・補助金・交付金等	新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う地区敬老行事中止による事業運営補助金の皆減(45,229千円)

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

区分	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	-	7,426	4,770	△2,656
行政サービス活動支出	-	234,012	159,402	△74,611
行政サービス活動収支差額	-	△226,587	△154,632	71,955
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	-	8,595	8,595
投資活動収支差額	-	-	△8,595	△8,595
財務活動収入	-	11,800	-	△11,800
財務活動支出	-	18,125	18,146	20
財務活動収支差額	-	△6,325	△18,146	△11,820
収支差額 合計	-	△232,912	△181,373	51,539
一般財源充当額	-	232,912	181,373	△51,539
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	特徴的な事項
一般会計からの繰入金	新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う地区敬老行事中止による事業運営補助金の皆減(45,229千円)

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
65歳以上高齢者1人あたりコスト	平成30年度		円	令和3年3月31日現在の吹田市65歳以上人口で算出し、令和2年度は1人あたり、1,941円のコストがかかっています。
	令和元年度	89,136人	3,172円	
	令和2年度	89,694人	1,941円	
	平成30年度		円	
	令和元年度		円	
	令和2年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	22,526	22,289	△237
未収金	-	-	-	地方債	982	1,642	659
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	4,381	3,484	△897
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	17,164	17,164	-
事業用資産	1,445,144	1,413,645	△31,499	固定負債	249,376	221,122	△28,255
有形固定資産	917,015	910,935	△6,080	地方債	19,686	18,044	△1,642
土地	528,130	494,115	△34,015	長期借入金	-	-	-
建物・工作物	-	-	-	退職手当引当金	40,891	31,442	△9,450
リース資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
建設仮勘定	-	8,595	8,595	その他固定負債	188,799	171,635	△17,164
無形固定資産	317	294	△23	負債の部合計	271,903	243,411	△28,492
有形固定資産	-	-	-	純資産	1,173,558	1,170,528	△3,030
インフラ資産	-	-	-	重要物品	-	-	-
土地	-	-	-	図書館資料	-	-	-
建物・工作物	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	出資金	-	-	-
重要物品	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
図書館資料	-	-	-	基金	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
出資金	-	-	-	その他債権	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	資産の部合計	1,445,461	1,413,939	△31,522
基金	-	-	-	負債及び純資産の部合計	1,445,461	1,413,939	△31,522
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

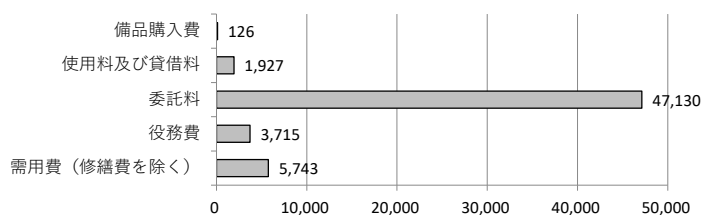
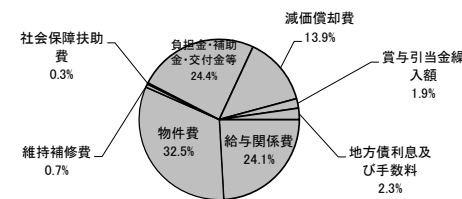
	常勤・再任用 月平均	会計年度任用等 年間従事延日数	特別職非常勤 年間従事延日数	合計(千円)
事業従事人数	5.3 人	243 日	10 日	40,626
給与関係費等	38,029 千円	2,513 千円	84 千円	
内、時間外勤務手当	3,021 千円			

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
土地	旧山手地区高齢者いきいの間跡地(169.96㎡)の所管替えによる6,080千円の減
建物・工作物	減価償却による24,992千円の減

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	高齢者いきいの間 ほか
取得年月日	昭和56年(1981年)5月1日ほか
建物・工作物の取得価額	1,094,351 千円
建物・工作物の減価償却累計額	600,236 千円
利用料金収入	- 千円

▽分析指標

(単位:%)

分析指標	年度	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率		-	0.1	0.1	0.0
施設老朽化比率		-	53.0	54.8	1.8
受益者負担比率		-	-	-	-
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		-	92.4	97.4	5.0
経常費用対公共資産比率		-	25.2	15.9	△ 9.3

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.2%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

・一昨年度、総合計画に沿った管理事業の見直しを行い、高齢者生きがい事業として事業を再編したため、平成30年度のデータが表示されていません。
 ・減価償却により資産(建物)が減少しています。建物の老朽化比率は54.8%となっており、市保有施設全体の老朽化比率(57.2%)を2.4ポイント下回っています。
 ・経常費用の約1億7千万円のうち、物件費が32.5%、負担金・補助金・交付金等が24.4%、給与関係費が24.1%を占めています。物件費のうち委託料が最も多く、高齢者いきいの家指定管理料が15,567千円、高齢者生きがい活動センター指定管理料が11,706千円となっています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

高齢者生きがい事業の多くを占める負担金・補助金・交付金等の経費は、高齢化の進展に伴い、今後も増加していくものと考えています。費用対効果の検証を継続して行い、持続可能な事業実施となるよう、事業のあり方を検討していく必要があります。
 既存施設の老朽化に伴う維持補修費は今後も増加するものと考えていますが、限りある財源の中、計画的な修繕及び備品更新計画を立て、予算の確保を行い、効率的・効果的な維持補修を行っていく必要があります。